



STUCK³

KIKUCHI Kazuaki

菊池和晃 STUCK³ 泥濘のキュビズム



3.18 水 — 28 土

PM 12-7 (最終日 ~ PM5) 休廊: 日・月・火

会期中催し

3/21 土

終日、パフォーマンス

フェルメール《真珠の耳飾りの少女》が今夏来日し大阪中之島美術館で展示されることになり、話題になっています。よく知られているように、この作品は数奇な運命をたどりました。フェルメールの死(1675)後、本作は競売にかけられ、その後200年余り所有者を転々。1881年の競売で最後の所有者が1万円で落札し、彼の死後マウリッツハイス美術館に寄贈されました。今回菊池和晃は、この作品を含め、ベラスケス《ラス・メニーナス》とヤン・ファン・エイク《アルノルフィーニ夫妻の肖像》に目線の高さで最接近したときに見える(であろう)『超近景シリーズ』、鉄板に「アイアンブラシホルダー」で描く《脱重力の為のプラクティス》を展示します。3月21日(土)には作品を使ったパフォーマンスが行なわれます。

折角なので、スタックした泥濘を観察してみることにした。ゼロ距離で眺めてみたり、線を引いてみたり、重さを確認したり。どのみち、しばらくの間ここで足止めを食うことになるので、じっくりやってみることにした。

そのうちに、ぽつりぽつりと鳥肌が立ってきて、皮膚が引っ張られ、体が浮いて、前後不覚になってきた。

泥の重みを感じつつ、なんとか体を動かして泥をかき出していく。しばらくすると、隣に新しい泥濘ができたので、誰かがそこにスタックするのを期待した。

(菊池和晃)

■KIKUCHI Kazuaki

1993年京都生まれ。2018年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻構想設計クラス修了。京都を拠点に美術家として活動。肉体を酷使することで稼働する自作の装置で、美術史から引用したイメージを生産する。

近年の展覧会に、「Chronoscape | 蓄積された時間、継続する行為」成安造形大学(2025)、「KANSAI ART ANNUAL 2020 CO」心斎橋PARCO(2025)、「ニューミュージーション #3 菊池和晃・黒川岳・柳瀬安里」京都芸術センター(2020)、主な受賞歴に、LUMINE meets ART AWARD 2020-2021 グランプリ、京都府新鋭選抜展2020 優秀賞などがある。



+ | art

542-0012 大阪市中央区谷町6-4-40
www.plus1art.jp TEL 06-7712-6685

image 表面: 《脱重力の為のプラクティス #1-アイアンブラシホルダー》鉄、筆 H140x75x75mm 2026
裏面: 《超近景シリーズ》キャンバス、アクリル絵具 各 400x400xD50mm 2026